

新人挨拶

特許審査四部
電子商取引
小島 哲次



ただいま、ご紹介にあずかりました、小島哲次と申します。
このような厳粛かつ盛大な場において大変僣越ではございますが、任期付採用者を代表しまして、ご挨拶させていただきます。

まず、はじめに、ご来賓の方々におかれましては、多くの温かい励ましのお言葉をくださいましたことを、厚く御礼申し上げます。また、4月の入庁以来、私たち任期付採用者を暖かく迎え、懇切丁寧にご指導いただいております講師の方々、指導教官の方々、諸先輩方にも深く御礼申し上げます。

私たち任期付採用者は、各技術分野の研究開発のエキスパートではありますが、知的財産に関してはこれまで未経験だった者もおります。しかし、ここにいる皆、知的財産の重要性を強く認識しており、他では経験できない審査業務に携われることに喜びを感じております。

そんな中、4月の入庁以来、研修や、指導教官、先輩との話を通じて、審査の迅速化を果たしながら審査の質を確保することが重要であると強く感じています。迅速化を果たしながら質を確保することは、どのような仕事においても重要な要素であり、私たちが企業において携わってきた業務の中でも常に問われてきた難しい課題です。私は買い物客自身が商品のバーコードをスキャンして、会計する無人レジ端末の製品開発に携わっていました。製品開発には当然スピードが求められるのですが、迅速に製品を提供するにあたり、ユーザの視点を無視して設計すると、障害が発生する可能性が高くなり、製品としての品質が問われます。また、その障害を復旧するために、無人で動作する端末なのに、人が介入することとなり、無人レジ本来の目的を失うだけではなく、製品を提供する側と提供される側、双方に不利益が生じます。

このような経験を踏まえて、迅速で質の高い審査をするためにはどうすればよいかを自分なりに考えてみました。そのためには出願人の立場から見た場合、審査された内容をどう思うかを考えながら、審査する必要があると思います。出願人とコミュニケーションを取り、起案や面接において審査官の意図を明確に伝えれば、お互いに深い理解が促され、迅速で質の高い審査につながると思います。

私たちは、これらを一つ一つ学びながら実践して行き、迅速で質の高い審査ができるよう、日々、審査業務に精進して行く所存です。迅速で質の高い審査を提供できれば、他の審査官や出願人に信頼される審査官になることとなり、

業務効率化、審査の質の均一化にもつながると思っています。そして、任期終了後の私たちのキャリアにおいても大いに役に立つことと思います。

最後となりますが、本日お集まりの諸先輩方には、これからも多数、お世話になることと思います。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

